

【国語】分析



○正答率の高い力

A 教科の内容（基礎的基本的な能力）

問われている力	設問	正答率
<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心・意欲が高い。書こうとする姿勢など。 ・ 聞き取り（話す・聞く）の力。 	5-(4)	95.6%
	6-(4)	86.7%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な接続語を使うことができる。 	1-(3)	86.7%

B 読み解く力に関する内容（思考力・判断力・表現力）

問われている力	設問	正答率
<ul style="list-style-type: none"> ・ 叙述をもとに場面の様子を正確に読み取ることができる。 	5-(1)	75.6%

○正答率の低い力 →

各学年の授業改善に生かす。

A 教科の内容（基礎的基本的な能力）

問われている力	設問	正答率	課題	改善点（具体的な学習活動・内容・方法）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4学年までに配当される漢字を文脈に即して正しく読むことができる。 ・ 第3学年までに配当される漢字を文脈に即して正しく書くことができる。 	2-(1)	11.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドリル学習だと当該学年が主になってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベーシックドリルを使い、学年以外の漢字学習を行う。読み替えの漢字の定着を図る。
	2-(2)	60%		

B 読み解く力に関する内容（思考力・判断力・表現力）

問われている力	設問	正答率	課題	改善点（具体的な学習活動・内容・方法）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の気持ちを読み取ることができる。 	5-(2)	68.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語の文章の取り組みでは、あらすじの流れを読み取る力。語句の正確な意味理解。語彙を増やす。 ・ 関連づけて読み取ることは少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の背景をおさえ、文にそって登場人物の心情を読み取らせる。語句の正確な意味理解、語彙を増やすために、辞書を活用させる。 ・ 段落と段落の関係をとらえる授業展開を行う。段落ごとに要約する力を養う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの資料の内容を比較・関連付けて読み取ることができる。また、筆者の思いを理解・解釈して資料に書いてあることをまとめた文章を考えることができる。 	4-(2)	11.1%		

**本年度の重点…基礎的・基本的な能力の強化
思考力・判断力・表現力の向上**

【具体的な実践】

●低学年…

●中学年…

●高学年…

	基礎的・基本的な能力の強化	思考力・判断力・表現力の向上
●低学年…	<ul style="list-style-type: none"> その学年の配当漢字を繰り返し練習するとともに、ベーシックドリルを活用し下学年の学習も並行して行う。 図書時間を確保し、本に親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明文、物語教材において、挿絵と文を結びつけながら内容を読み取り、交流により他者に分かるように伝える時間を設定する。
●中学年…	<ul style="list-style-type: none"> その学年の配当漢字を繰り返し練習するとともに、ベーシックドリルを活用し下学年の学習も並行して行う。 隙間読書を進める。 マイ辞書を使い、語彙力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明的文章の読み取りの際、要点を捉えるだけでなく、段落相互の関連付けを行う。 下学年や他教材の説明文を用いて、多くの文章に触れさせるとともに、挿絵や図を抜いたものに文の挿入として適切なものを考えさせたり、文章構成の様々なパターンや問題形式に触れさせたりする。
●高学年…	<ul style="list-style-type: none"> その学年の配当漢字を繰り返し練習するとともに、ベーシックドリルを活用し下学年の学習も並行して行う。 隙間読書を進める。 過去問などをさせて、回答の仕方に慣れさせる。資料を読み比べる問題などにも触れさせる。 テスト返却時に、テストの問題を読み答えるスキルの確認を丁寧に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 下学年や他教材の説明文を用いて、多くの文章に触れさせるとともに、挿絵や図を抜いたものに文の挿入として適切なものを考えさせたり、文章構成の様々なパターンや問題形式に触れさせたりする。 説明文でも、物語文でも文を読んだら自分の考えを交流する。（書く、話す、どちらでも）